

氏名(本籍)	境野 昌行(東京都)
学位の種類	博士(鍼灸学)
学位記番号	鍼博甲第71号
学位授与の日付	平成29年 3月 17日
学位授与の要件	大学院学則第34条第1項および学位規程第5条第1項該当
学位論文題目	Effect of Electroacupuncture Treatment for Itching and Skin Condition of Patients with Atopic Dermatitis; A Randomized Controlled Trial. (鍼通電刺激がアトピー性皮膚炎に与える影響 - 痒痒感及び角層の機能・形態に関する検討- ランダム化比較試験)
論文審査委員	(主査) 江川雅人 (副査) 片山憲史 (副査) 石崎直人

論文内容の要旨

【目的】

アトピー性皮膚炎患者の痒痒感及び角層の機能・形態に対する鍼通電治療の効果を、ランダム化比較試験の下に検討し、その有効性を評価した。

【方法】

対象はアトピー性皮膚炎患者 20 名とした。西洋医学的標準治療に加えて鍼通電を行う群 10 名(鍼通電群)と、西洋医学的標準治療のみで経過観察を行う群 10 名(対照群)にランダム割付した。介入期間は 5 週間とし、鍼通電群は週 1 回の鍼通電治療(100Hz、15 分間)を行った。評価は、主観的評価として①痒痒感、②QOL、③皮膚炎の重症度、客観的評価として皮膚バリア機能である①経表皮水分蒸散量、②角層水分量、③角層細胞面積の測定に加えて、皮膚局所の病勢指標として角層細胞内に存在する④表皮角層 TARC の画像解析を行った。

【成績】

評価対象としたすべての項目で改善傾向を認めたが、群間での有意差は認めなかった。角層細胞面積の変化についてのみ群間の比較において、鍼通電群に有意($p=0.01$)な増加が認められた。

【考察】

アトピー性皮膚炎の病態には、先天的に IgE 抗体を産生しやすく喘息などのアレルギー疾患を合併し易い免疫学的側面と、皮膚乾燥化、皮膚脂質低下、経表皮水分蒸散量亢進などの皮膚のバリア機能の低下による非免疫学的側面がある。今回得られたデータから、100Hz の鍼通電刺激は免疫学的側面よりも、非免疫学的側面である皮膚のターンオーバーに影響を与える可能性が考えられた。

論文審査の結果の要旨

目的：アトピー性皮膚炎患者の掻痒感及び角層の機能・形態に対する鍼通電治療の効果を、ランダム化比較試験の下に検討し、その有効性を評価した。

方法：対象はアトピー性皮膚炎患者 20 名とした。西洋医学的標準治療に加えて鍼通電を行う群 10 名(鍼通電群)と、西洋医学的標準治療のみで経過観察を行う群 10 名(対照群)にランダム割付した。介入期間は 5 週間とし、鍼通電群は週 1 回の鍼通電治療(100Hz、15 分間)を行った。評価は、主観的評価として①掻痒感、②QOL、③皮膚炎の重症度、客観的評価として皮膚バリア機能である①経表皮水分蒸散量、②角層水分量、③角層細胞面積の測定に加えて、皮膚局所の病勢指標として角層細胞内に存在する④表皮角層 TARC の画像解析を行った。

成績：評価対象としたすべての項目で改善傾向を認めたが、群間での有意差は認めなかった。角層細胞面積の変化についてのみ群間の比較において、鍼通電群に有意($p=0.01$)な増加が認められた。

考察：アトピー性皮膚炎の病態には、先天的に IgE 抗体を産生しやすく喘息などのアレルギー疾患を合併し易い免疫学的側面と、皮膚乾燥化、皮膚脂質低下、経表皮水分蒸散量亢進などの皮膚のバリア機能の低下による非免疫学的側面がある。今回得られたデータから、100Hz の鍼通電刺激は免疫学的側面よりも、非免疫学的側面である皮膚のターンオーバーに影響を与える可能性が考えられた。

本研究はアトピー性皮膚炎を対象にした鍼通電刺激の影響を、過去の研究でみられた免疫学的視点からではなく、皮膚の機能や形態から評価したものである。その結果は、掻痒感の軽減は明瞭な結果としては得られなかったものの、角層細胞面積の有意な拡大が認められたことは、皮膚のターンオーバーの正常化を示しており、同疾患に対する鍼灸治療の治効機序として新たな成果を生んでいる。また、アトピー性皮膚炎ばかりでなく美容領域での鍼灸治療など今後の皮膚科領域での鍼灸治療に対して広く基礎的示唆を与える研究成果である。以上の成果から本学大学院博士(鍼灸学)の学位を授与するに値するものと認める。

(主論文公表誌)

日本未病システム学会雑誌 Vol.23 NO.1 2017